

かがやき新聞

八月号

発行者 菅本千尋

自己紹介と着任理由

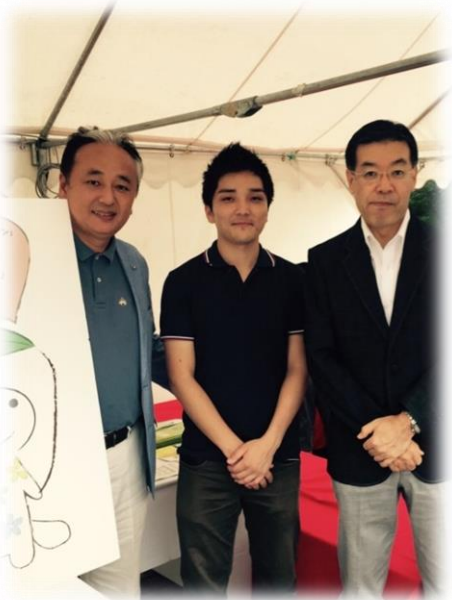
こんにちは、このたび京都市北部山間地域の振興のため地域おこし協力隊として採用され、現在京北地域を担当している菅本千尋と申します。

今回の活動の為に三重から引越して活動しています。趣味は旅行、呑んで食べ歩きです。今までの職歴は、鈴鹿サーキットでカートインストラクター、製造業、保険会社外交員など様々な仕事をしてきましたが、27歳になり、以前から興味のあった仕事をしたいと思いいこの京北へ赴いて参りました。

この制度に応募した理由は、以前から地方創生などの公共政策に興味があり、特に地域社会の再生などに関心があった為です。日本の何気ない田園風景は大切な食料資源の生産の場であり、また、日本人の心の故郷としての観光資源でもあります。観光資源であり、外国人観光客の方々にも、これからは田舎であっても勝負できるのではないかと、海外旅行などを通して経験、体験してきた事が影響しています。

二か月を振り返って

こちらに着任してからは様々な活動をさせていただいています。例えば、イベント行事にブース出展し京北についてのアピール、ショッピングモールにて特産品の販売、地域の伝統行事への参加など、多岐にわたる活動を体験させていただきました。先日参加した福知山での行事には、京都府知事も挨拶に来ておられ、記念に写真を撮って頂きました。今まではなかなかお目にかかる機会が無いような方々や経験の日々に学ぶことがたくさんあります。



京北での活動について

「こちらに来てから積極的に参加させていただいている事と言えば、京北及び山間地域で行われる行事です。印象的なのは、どの地域も火を使った行事が多いことです。話を聞いてみると、この地域は古くから愛宕山信仰の地域であり、そのために火を崇めるのだと地域の方から伺いました。一般的には地域の伝統行事といった側面がある為、地域外の者は参加出来ないのですが、今回呼んでいただいた黒田地域のお祭りでは、松上げで使用する松明の作成から、当日の松明投げ入れまで参加させていただきました。黒田地域では面白いことに、神事としてではなくエンターテイメントとして取り組んでいるとの事。なので、松明作成から取り組んでくれた者は特別に参加させて下さるとの事でした。火のついた松明をぶんぶん回しながら、高さ10mの大松明に投げ入れるのは普段では経験できない高揚感があります。でも、この行事に参加して一番心に響いた事は地域の方から「やっぱり若者が参加してくれるのは嬉しいな」と言っていた事です。

ぜひ、みなさんも一度、他所では体験できない参加型エンターテイメントの神事を体験しに黒田のお祭りにいらしてみてください。

次回は

- ・新たに検討している活動の報告
 - ・他県の地域振興取組の視察
- を予定しています。



宕陰の虫送り、綺麗でした



「こちら」は黒田の松上げです